センターだより

特別号ⅩⅣ
平成24(2012)年11月22日発行

吹田市立教育センター
大阪府吹田市出口町２－１
ＴＥＬ　06-6388-1455
ＦＡＸ　06-6337-5412
メール　s-educ@suita.ed.jp

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

「困っている子どもや先生を助け隊！！その②」

～問題行動・不登校・学習支援をさまざまな切り口で考える～

学校現場の様々な課題の背景を探り、解決方法を考えていくシリーズの第二弾。今回は「問題行動・不登校」「学習」について取り上げます。学校・園での研修や学年会などで、ぜひ活用ください。

ケースⅢ「問題行動」

問題行動

☆他人のものをとる。
☆親の金を使う。
☆万引きをする。

理由

理由を考えましょう
○周りに流されやすい。
○他人から強要される。
○周囲との関係がうまくいかない。
○善悪の判断等がつきにくい。

原　因

こんなことが原因かも？
・①　　関係が変化していませんか。
・友人と②　　になっていませんか。
・③　　にあっていませんか。

こんなことが原因かも？
・④　　関係は良好ですか。
・何か悩み事があるのではないでしょうか。
・⑤　　な課題はありませんか。

助　け　隊

茨木少年サポートセンター
少年サポートセンターは、問題行動の原因を探り、その子どもや問題にあった指導方法を少年相談専門員等と一緒に考えるところです。まずは各学校の生徒指導担当または生徒指導主事に相談してみましょう。

スクールソーシャルワーカー（SSW）
いじめ・不登校・虐待等、個別課題のある児童・生徒の環境整備等の支援を行います。

スクールカウンセラー・出張教育相談
子どもの心理的なケアが必要と考えられる場合は、スクールカウンセラーや出張教育相談員に相談してみましょう。

新たな不登校を生まない施策を②（前回の特別号①に引き続き！）

「不登校になる前に、不登校になりそうな児童生徒を予見する」

不登校の予見は困難と思われがちですが、診断や、検査によらない予見が可能です！準備する物は、前年度までの出欠状況の記録です。例えば、前年度30日以上の欠席があった児童生徒は、今年度も休む可能性が高いと考えられ、休み始めたら即対応を開始した方がよいと判断できます。また、欠席は少ないけれど、遅刻や早退の日数が80日を越えている児童生徒も**「不登校相当」**として扱っていきます。

どのように「初期対応」に役立てるのか！
①「不登校経験有り」（不登校・不登校相当）や「不登校経験無し」のように分類していきます。
②「経験有り」に分類された児童生徒については、一日か二日休んだだけでも教職員が対応できるように準備します。反対に、「経験無し」の場合には、連続して休むようでなければ様子を見ても大丈夫と考えていいでしょう。

参考：文部科学省国立教育政策研究所　生徒指導・進路指導研究センター
「不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つ施策に関するQ&A」

茨木少年サポートセンターの活用術

《立ち直り支援》
警察や児童相談所、学校からの紹介のあった子どものうち、体験活動を通じた立直り支援活動が効果的であると判断された子どもに関しては、保護者と連携を取りながら支援活動を行っています。ケースワーカーが子どもの関心や状況に応じた学習支援、音楽、工芸、料理、スポーツ、奉仕活動等のプログラムや体験活動等を実施しています。

《継続補導》
問題行動を繰り返し、指導が入りにくい子どもに対しては、家庭の協力を得たうえで、定期的に学校訪問を実施し、普段の生活態度等についての指導を行ってくれます。

《非行防止・犯罪被害防止教室》
中学生で生起する問題行動の予防のため、前段階の小学校高学年を対象に、非行や犯罪に対する理解や犯罪に巻き込まれないための行動啓発をすすめています。サポートセンター職員が各学校に出向き、子ども達に直接語りかけることを通じて、少年の健全な育成を推進しています。主に小学５年生を対象に、少年サポートセンター「少年育成室」と「育成支援室」職員が連携して、ペープサート（人形劇）などを通じてクラス単位の授業形式で丁寧に指導・実施しています。

参考：大阪府ＨＰ「少年サポートセンターとは」

スクールソーシャルワーカーの活用術

《スクールソーシャルワークとは？》
子どもたちが直面している問題を「人と環境との相互作用」ととらえ、「子どもの最善の利益」のために、福祉的な視点で、家庭・学校・地域に働きかけ、校内のチームで問題解決や改善を図ります。

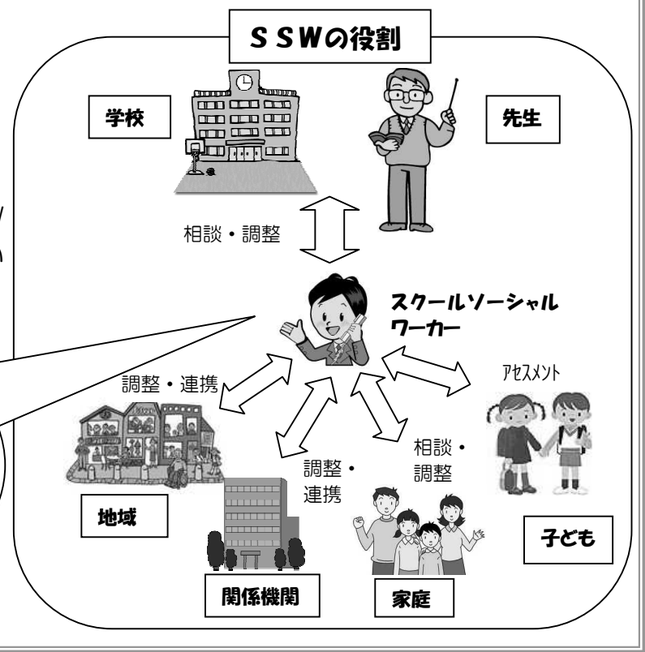
《スクールソーシャルワーカー（SSW）は学校でどんな仕事をしているの？》
役割分担のひとつとして、生活支援の必要な保護者や要保護児童（虐待通告）の保護者の面談を行います。担任や生徒指導担当者や管理職等と一緒に保護者にお会いすることもあります。

ケース会議や校内委員会に参加して、先生方とともにアセスメント（子ども全体に関わる情報収集と分析）を行います。

子育て支援室や子ども家庭センター等の関係機関と連携し、学校と関係機関との調整を行います。虐待や性暴力や非行など家庭への介入が必要なケースに積極的に関わります。

小中学校に関わるきょうだいケースは、ＳＳＷが聞き取りをしたり、小中連携ケース会議を開いたりします。

ＳＳＷは週１回、中学校ブロックに勤務しています。気になる子どものケースは、お気軽に担当のＳＳＷにご相談ください！また、スクールカウンセラーや出張教育相談員との綿密な連携も行います！



ケースⅢ：①交友②トラブル③いじめ④家族⑤発達的

ケースⅣ「勉強がしんどい」

「勉強がしんどい」という言葉をよく聞きますが「勉強がしんどい」とはどういうことなのでしょうか。それは子どもの課題なのでしょうか？教員の課題なのでしょうか？さまざまな切り口から考えて見ます

学習の課題

勉強がしんどい

□ 学習内容が理解できない
□ 学習に向き合えない

理由

理由を考えましょう

● 学習の積み重ねができていない
● 教員の指導に課題がある
● 本人や環境要因によって学習に集中できない

□にあてはまる言葉

①組み立て ②教材 ③考え ④交流 ⑤基礎基本 ⑥段差 ⑦発達的 ⑧学習規律 ⑨学習集団 ⑩教師

原因

こんなことが原因かも？

- 授業の①＿＿＿は子どもの理解を進める形になっていますか？
- ②＿＿＿の工夫はできていますか？
- 教員からの一方的な発信ではなく、児童・生徒が自らが③＿＿＿たり、意見を④＿＿＿できるスタイルの授業になっていますか。

こんなことが原因かも？

- ⑤＿＿＿が定着していますか？
- 校種間の⑥＿＿＿でつまずいていませんか？

こんなことが原因かも？

- 本人に⑦＿＿＿な課題がありませんか？
- 教室の⑧＿＿＿は整っていますか？
- クラスの⑨＿＿＿としての高まりはどうでしょう。
- ⑩＿＿＿学習はできていますか？

助け隊

大阪の授業STANDARD
→授業改善プログラムに取り組みましょう。

教育センター　教職員研修
→研究授業・校内研修会を活性化しましょう。

教育センター・さつきらるーむ
→授業の組み立て方や指導案の書き方などのアドバイスをします。

小中一貫の視点で“学力”を捉えましょう

- 学力状況を中学校区単位で検討し、小･中を縦に見通した一貫カリキュラムを考えましょう。

授業のユニバーサルデザイン化

- どの子にとっても理解しやすい授業を創りましょう。

「巡回相談」

- 支援の必要な子どもに対する手立ての検討をしましょう。**→教育センターだより特別号「困っている子どもや先生を助け隊！！その①」**

人権教育の視点から

- クラスの安心ルールを実践し、自分らしく過ごせるクラス作りをしましょう。

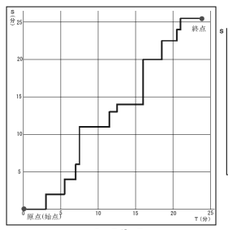
校内ケース会議・SSW・カウンセラーの活用

- ケース会議で子どもを不安定にする要因を検討しましょう。ＳＳＷを活用することによって家庭環境の調整・カウンセラーの活用で児童生徒の情緒の安定を図ります。

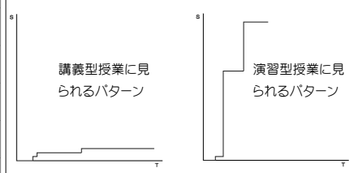
→表面参照

S―T授業分析とは

授業中に出現する児童･生徒〔S〕の行動と教師〔T〕の行動を 30 秒ごとに観点別に記録し、量的側面と質的側面の両面からみることによって、授業中の児童･生徒と教師の行動関係がどのように現れているかを分析するものです。（大阪府教育センターHP から分析ソフトをダウンロードできます。）



S－Tグラフ



横軸は教師の行動時間、縦軸は児童・生徒の行動時間

「授業改善のための 授業分析ガイドブック」（神奈川県立総合教育センター）より

授業はもっとおもしろくなる！ ～More interesting lessons!～

「教師は授業で勝負する」と昔から言われてきましたが、多面的な力を要求される今に至っても、この基本は変わらないのではないでしょうか。「勝負できる授業」にするためには地道に日々の授業改善に取り組むこと以外に近道はありません。今からできる授業改善として次のようなことを提案します。

子どもの実態を把握する

① 現段階でできていることとできていないことを理解し、子どものスタートラインを確認する。
② 子どもの持つ“強み”を確認する。
③ 個々の学力実態･生活背景を把握する。
④ 学習集団としての質を理解する。

どの年でも、どのクラスでも、どの学校でも同じように使える授業案などありません。目の前の子どもの実態把握をしましょう！

適切な課題をなする

見えないルールを敷く　心を揺さぶる

「本時のめあて」を教科としての価値を有し、発達段階や系統性を踏まえながら、子どもが自分の問題として受け止めるような形にして提示します。やる気や知的好奇心を引き出すような課題に子どもたちは燃えるのです。

やってみたい！　考えてみたい！　背伸びしたら届きそう！

授業スタイルを変えましょう

授業スタイルを工夫してみませんか

「教え込み型」
「1 問 1 答型」
から
問題解決型へ

① すでに獲得した力を使って課題に立ち向かう。
② 子どもが持つ強みを利用する。
③ まずは自分の力を頼りに課題に向き合い→友だちとつながり、意見を出し合って解決していくという流れで思考の広がりと深まりを実感させる。
④ 安心できる教室で多様な考え方を保障する。

教育の工夫はエアしましょう

たとえば…

自分の授業をビデオに撮って見てみよう → 事前研究･模擬授業を行う → 付箋を使ってポイントを明らかにする

- 教科の内容で教材研究や指導の仕方を深めます。
- どの教科であっても、授業としての基本の部分で研究をします。

S－T分析で活動時間の観点から授業を振り返る → 学年によって見る観点を決める → ワークショップ型の研究会

中一貫教育の視点で考える

吹田市の小中一貫教育は「施設分離型」といわれるもので、めざす柱のひとつに「小中一貫カリキュラム」があります。中学校ブロック内で共通認識された共通カリキュラムを展開することで、中学校入学時の段差をなくしたり、先の見通しをつけた教育活動に取り組むことができます。カリキュラムを作る過程でぜひおこないたいのは…

① **学力学習状況調査等を考察材料として中学校ブロックでの地域的な学力状況を把握する**
② **小･中それぞれ異校種の授業を見ることで、子どもの発達段階や指導の仕方を理解する**
③ **地域の子どもの持つ強みや課題を整理し、小学校卒業、中学校卒業時点でどんな力を持つかを具体的にイメージする**

また、授業研究、公開授業･研究会を小･中学校だけではなく、ブロック内の幼稚園･保育園などの就学前教育機関も合同でおこない、授業の基本部分での協議をするのも有効です。研修･研究にお互いが参加することで、子どもの見方や指導法の共有化することが大きな力となるからです。

参考:「大阪の授業 STANDARD」大阪府教育センター 「授業研究ハンドブック」山形県教育センター 「学校力･教師力を高めよう」栃木県教育委員会